

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立桜宮小	学校
---------	----

児童数	54
-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.72	19.39	37.28	39.22	50.78	9.35	152.67	21.37	54.44
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	15.00	20.36	40.23	38.36	43.73	9.48	142.14	12.19	55.43
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

本校の体力調査の結果、男子は握力、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げにおいて全国平均を上回った。上体起こしと反復横跳びについては全国平均をやや下回ったものの、大阪市平均は上回る結果となった。女子は上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走で全国平均を上回り、反復横跳びおよび立ち幅跳びでは大阪市平均を上回った。

体力合計点においても、男子は全国平均を1.42ポイント、女子は1.46ポイント上回り、全体として良好な結果が見られた。一方で、反復横跳びは男女ともに全国平均に届いておらず、敏捷性の向上が今後の課題として挙げられる。

また、児童質問紙の結果から、「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童は男女ともに100%であり、運動に対する意欲の高さがうかがえる。さらに、1週間の総運動時間が60分未満の児童はおらず、日常的に運動に親しんでいる様子が確認できた。以上のことから、本校児童は運動に対する関心は高く、それとともに、運動を行うことが習慣化してきているといえる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校では、独自に作成した体育科の指標「桜の力」を活用し、発達段階に応じた段階的な目標設定のもと、児童がスモールステップで達成感を積み重ねられるよう取り組んできた。その結果、体育の授業だけでなく休み時間においても主体的に運動に親しむ姿が見られ、日常的な運動習慣の定着につながっている。

また、体育科を研究教科とし、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を進める中で、児童同士の教え合いが活発となり、運動が苦手な児童においても「できた」という成功体験を積み重ねることができた。これらの取組の成果として、児童質問紙において「運動やスポーツが好き」と回答した児童の割合が男女ともに100%となり、運動に対する高い意欲が育まれている。

さらに、本調査においても多くの種目で全国平均を上回り、体力合計点においても男女ともに全国平均を上回るなど、全体として体力の向上が見られ、これまでの取組の有効性が確認できた。

一方で、反復横跳びの結果が男女ともに全国平均に届いていないことから、敏捷性に関わる力の育成が課題である。今後は、「桜の力」の項目や日常の運動環境の中に、方向転換や素早い動きを伴う運動を意図的に取り入れるなど、敏捷性を高める取組の充実が求められる。また、運動に対する意欲や習慣を生かし、児童の実態に応じた指導の工夫と運動の質の向上を図り、体力のバランスのとれた向上をめざしていく。

